

Housing Market News

2019 vol.11

10|18 ▶ 11|21

東京ガス株式会社
営業第二事業部<http://biz.tokyo-gas.co.jp>今月の
トピック解説

TOPIC

住宅メーカー第2四半期決算、消費増税で受注減らす

3月期決算の住宅メーカー大手5社の2019年4～9月期決算が出そろった。多くは増収となったが、消費増税の影響から、受注高は軒並み減少。国内の住宅需要の落ち込みを前期の受注増や他の事業でカバーした。10月以降の下期についても、消費増税の影響を想定した弱気な見方もある。

大和ハウス工業は事業施設などを中心に業績を伸ばし、売上高は2兆1793億円で前年同期を9.9%上回った。戸建住宅は前年を1.5%増の2396億円。ただ、海外での住宅事業が成長を支え、国内は消費税の影響で売り上げを落としたが、芳井敬一社長「想定以上に消費税対策が効いている」と受け止める。第2四半期の受注高は前年同期を9.2%減った。

住友林業の売上高は5297億円と前年同期を10.6%下回った。売り上げの半数を占める木材建材の取引にかかわる収益計上を変更したことが主因。住宅建築事業の売上高は2337億円で前年を16.2%上回った。前期の戸建て注文住宅・リフォームの堅調な受注が大きく貢献した。一方で、受注は消費増税の影響を大きく受け、戸建注文住宅での金額は同13.2%減。リフォームも苦戦し、前年同期を8.5%下回った。「大型物件を中心に消費増税の反動減があった」（市川晃社長）。

旭化成ホームズグループの売上高は3049億円で前年同期比12.2%増。建築請負部門の旭化成ホームズの売上高は、昨年の受注増が貢献し、1973億円と過去最高を記録。上期の受注は、「増税の影響を少し受け」（川畑文俊社長）、戸建系の金額で前年同期を7.1%落としたものの、集合系で戸建ての落ち込みをカバーした。

リフォーム部門では売上高、営業利益ともに過去最高を記録。売上高は前年を17.5%上回る320億円。「改装工

3月期決算住宅大手5社の第2四半期決算

単位:億円、%、△マイナス

	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比
大和ハウス工業	21793	9.9	2093	10.4
住友林業	5297	△10.6	250	44.4
旭化成ホームズグループ	3049	12.2	301	23.9
積水化学工業 住宅カンパニー	2569	4	186	8
ミサワホーム	2093	11	50	81.3

事が前年から引き続き好調だったのに加え、防災意識の高まりから蓄電池などの設備工事が大幅に増加した」と話す。

積水化学工業 住宅カンパニーの売上高は前年同期を4%上回る2569億円。「災害影響により新築の売り上げ棟数は減らしたが、受注は健闘した」と神吉利幸プレジデント。各社が大きく受注を減らす中、同社の受注棟数は2%減にとどまった。「消費税の反動減により、鉄骨系は苦戦したが、ファーストバイヤーの需要は堅調で、木質系は大幅に増えた」（同）。リフォームの売上高は494億円で前年を5.8%上回った。アフターFIT顧客に向けた蓄電池の提案強化が貢献した。

ミサワホームの売上高は前年同期比11%増の2093億円。海外子会社が連結に加わったことが大きい。リフォームやマンションでの売り上げ増も貢献した。同社は年明けにトヨタ、パナソニックと新会社を立ち上げることから、年内で上場を廃止。磯貝匡志社長は「厳しい環境も覚悟していたが」と増収増益に安堵した。

下期を含めた通期の受注金額について、大和ハウス工業は前年比7%減と予想。「少し控えめに見ている」（芳井社長）。住友林業は二けた減を見込んでおり、市川社長は「駆け込み需要による反動減は予想通りだが、ただその後の回復が鈍い」とみるなど、楽観できない状態にある。

NEWS

今月の主なニュース

10|18

11|21

- ▶(一財)ベターリビング 東京ゼロエミ住宅の認証事業を開始 認証審査機関の1号に
- ▶永大産業 生活動線上の壁を活かしたコンパクト収納を発売 自由度の高いプランが可能
- ▶大和ハウス工業 Web限定の戸建住宅商品「ライフジェニック」発売
- ▶トヨタホーム レジリエンス体験棟を一般公開 災害後も安心して暮らせることを疑似体験
- ▶パナソニック ライフソリューションズ 最高級クラスのバス・キッチンを刷新 バスには素早く身体を温める新機能を標準搭載
- ▶アイリスオーヤマ 光源の取り換えが可能な「ランプ交換型 住宅用LED照明シリーズ」発売